2009 年 7 月 30 日

杉並区長　　殿
杉並区教育委員　各位

教科書採択についての要望書

平和と革新をめざす杉並懇話会（杉並革新懇）世話人会

私たちは、過日、総会に次ぐ議決機関である「世話人会」を開き、杉並の教育問題や教科書採択をめぐる諸問題について討議しました。

その結果、杉並区教育委員会が扶桑社版「歴史」・「公民」教科書及び自由社版「歴史」教科書の採択をしないよう要請することにしました。

扶桑社版つくる会「歴史」教科書には、重大な問題点があることを私たちは指摘してきました。

まず、この教科書は、日本の帝国主義がアジアの人々に甚大な被害と失望を与えた事実を隠し、アジアの独立のための、欧米諸国の覇権に対する正義の戦争であったかのように描いています。

また、中国や朝鮮に関する記述でも、両国の政策や対応のつたなさを強調し、日本の武士道精神を高く評価するなど、アジアの歴史への配慮を欠いた独善的な内容になっています。

さらに、日本歴史の偉大性と万世一系である天皇制の正当性を強調しつつ、これに殉じた「偉人」を褒め称え、民衆のはたす役割や百姓一揆、自由民権運動期に起きた秩父事件をはじめとする民衆の運動については、ほとんど触れていません。

こうした記述の仕方は、日本における民主主義を築くための民衆の不断の努力を否定、あるいは軽視するものであり、民主主義と日本国憲法の精神を否定するものです。

扶桑社は、先に、「内容が右寄りすぎて、教育委員会の評価が低く採択がとれない」として、「新しい歴史教科書をつくる会」（つくる会）による教科書作成の終了を宣言。「つくる会」は分裂し、その汚らしい争いは裁判問題になっています。

自由社版教科書と扶桑社版教科書が発行され、採択を求めて争っていますが、両者の内容はほとんど同じです。

欠陥教科書である上に、政治的な対立と抗争にゆれる教科書を採択することは、杉並区教育委員会の、一方に偏した政治的立場を示すことになり、これ以上の不幸はありません。

区民や教職員の圧倒的な反対の意向を無視して、たった５人の教育委員、それも３対２で採択され、５年間にわたり使用されてきた結果はどうだったでしょうか。

保護者は「あんな教科書！」といって教育委員会への不信をつのらせ、教師は「新自由主義的教育改革」の中で振り回され、当の子どもたちも、「この教科書は歴史の事実を教えるというより、書いている側の思想が色濃く感じられる」「神話や天皇の話ばかり登場し、そのために大事な言葉や資料がぬけている」とか、偏りと受験の際の不安を述べています。

問題を指摘すればきりがありませんが、杉並の子どもたちと、区の名誉のために、杉並区教育委員会が、両社の教科書を採択せず、よりまともな教科書採択を行われるよう強く要請し、区民とともに見守り続けます。　　以上